

渡辺俊三教授定年退職記念号によせて

経済学部長 山 本 雄 吾

渡辺俊三教授は、2017年3月末をもって定年を迎えられ、名城大学を退職されることになりました。ここに、名城大学および同経済学部に対する先生のご貢献に対して感謝の意を表する次第です。

渡辺先生は、1970年に信州大学人文学部経済学科をご卒業の後、立教大学大学院経済学研究科修士課程および博士課程を経て、1989年からは広島修道大学商学部で教鞭をとられ、2000年に名城大学経済学部に教授として着任されました。またこの間、中小企業事業団情報調査部調査職、中小企業研究所研究指導員、立教大学経済学部非常勤講師等も務められました。

渡辺先生は、本学経済学部では中小企業論および中小企業政策論等、大学院経済学研究科では中小企業論研究（修士課程）および中小企業論特殊研究（博士後期課程）等を担当されました。とくに大学院教育にあつては、外国人留学生を含む多数の大学院生を指導し、優れた人材を育てられました。日本語論文の執筆能力が必ずしも十分とはいえない外国人留学生を、学位授与にふさわしい研究水準まで引き上げることはしばしば大きな困難を伴いますが、先生は多大の情熱を傾けてこれに取り組まれました。

研究面では、多数の著書・論文等を発表し、国内外の大学・企業者の団体等において多くの講義・講演を行っています。いずれも、渡辺先生のご専門である中小企業論、中小企業政策論、産業論に関する研究の成果です。この結果、優れた中小企業研究書に与えられる「中小企業研究奨励賞」を2回受賞するなど、先生の研究は学会において高い評価を得ています。

社会貢献については、愛知中小企業家同友会との連携事業が特筆されます。渡辺先生は、愛知中小企業家同友会との連携講座の講師を務めるほか、愛知県中小企業研究財団のアドバイザーとして中小企業家自身による研究事業の推進に積極的に関わってこられました。これらの長期にわたる連携が、2014年、名城大学と愛知中小企業家同友会との「産学地域連携基本協定」の締結を導きました。

渡辺先生は、学内行政についても多くの功績を残されました。2005年から2009年まで経済学部協議員を務められた後、2009年からは2期4年にわたり経済学部長・大学院経済学研究科長として、学部・大学院の舵取りの重責を担われました。この間、学部・大学院のカリキュラム改定や経済学部開設10周年事業等様々な事業を実現させました。

ここに、渡辺先生の名城大学での教育・研究・学内行政に対するご苦勞とご功績に心から感謝するとともに、今後のますますのご活躍を祈念して、定年退職記念号によせる言葉とさせていただきます。